

第5学年東組 家庭科学習指導案

「一枚の布から思いを紡ごう ～ミシンで楽しくソーイング～」

学習指導者 阿部 聡子

1 学級（35名）の実態

（1）共に学びを進め合うことに関する学級の実態

質問紙調査の結果より、家庭科の授業で、自分の考えがこれでよいか見直している子供は30名いる。しかし、手縫いの学習では、これまで針や糸を使って物づくりをした経験が少ないため、縫えたことに満足して自分の縫い方を確かめないままにしている子供がいた。教師の指示がなくても、家庭科の勉強を進めていけると思う子供は22名であり、実際の授業の様子を見てもこれまで取り組んだことがない布を用いた製作や調理の学習ではどうやって学びを進めていいかわからず教師の指示を待つ様子が見られた。また、自分が困っているにもかかわらず、具体的に分からないところを聞けない子供も6名見られた。

（2）本題材の学習に関する学級の実態

質問紙調査の結果より、裁縫が好きな子供は30名であった。一方で、あまり好きではない子供は、「初めての裁縫で成功もあるけれど、失敗も多い」ことを理由に挙げる子供が5名いた。また、ミシン縫いが初挑戦の子供は23名であるが、28名はミシンを使って製作活動することに興味があると回答した。製作活動を楽しみにしている子供がいる半面、裁縫に苦手意識や不安を抱いている実態がある。

2 本題材で習得を目指す「解決する」方法

ミシンを正しく使えているか確かめる

3 本題材で目指す「共に学びを進め合う子供」の姿

自分たちが手縫いした小物とミシン縫いの既製品を観察することで、それぞれのよさや身の回りにはミシン縫いの布製品が多いことに気付く。また実際に、教師のミシン縫いや製作物を見たことで、「ミシンを使って何か作ってみたいな」と思いを高め、「ミシンを使って生活に役立つ物を作ろう」という目標を設定する。その後、目標達成に向けて必要なことは何かを出し合う中で、「ミシンの使い方が分からない」「どうやって縫うのかな」などと問題を発見する。さらに、手縫い学習の際、製作の前に練習する時間を設定したことを想起し「ミシンの使い方や縫い方を練習してから製作したいな」と必要な学習や活動を考え、大まかな題材計画を立てる。そしてミシン縫いの練習をする際には、縫い目を確認しながら、友達と正しく縫えているかを確認めたり、次に練習したらよいところを見付けたりすることで、問題を解決することができるなど見通しをもつ。また、掲示してある製作物の段階見本を見て、どこに直線縫いや角縫いが使われているかを確認し、練習すべき縫い方を選択する。解決場面で直線縫いや角縫いの習得を目指す際には、ペアでミシン縫いの練習を進める。1人が縫っている間、もう1人が縫い方を確認して、「線からはみ出しているよ」と声を掛け、縫い終わった後に「縫い目を見ると右にずれているな」「布が斜めに送られていたよ」「次は布を真っすぐ奥に送ろう」などと自分の縫い目を見直し、互いに確かめミシンが正しく使えているかを振り返りながら製作を進めていく。2回目以降のミシン縫いでは、見付けたことを意識しながら取り組むことでミシンの使い方を習熟していくとともに自分で課題を解決できた実感を高める。振り返り場面では、「直線縫いが上手にできたのは、縫い目を確認めたり、〇〇さんが手の位置を教えてくれたりしたからだよ」「△△さんの力になれて嬉しいよ。私の角縫いの時も、△△さんのおかげで、角の手前で止まることに気付けたよ」などと友達と協働して学ぶことのよさや友達の技能の習得に貢献できたことを実感する。また、題材を通して繰り返し自分のミシンの使い方や縫い方がよいか自分や友達と確かめることで、自分の作りたい物を自信をもって作ることができる子供の姿を目指す。

4 達成意欲を高める目標共有の工夫 ①時

自分が手縫いした物やミシン縫いの既製品を観察したり、教師がミシン縫いを示範する場を設定したりすることで、縫い目、製作時間、扱うことができる素材の種類などのよさに気づき、「ミシンを使って何か作ってみたいな」という思いを喚起する。そして「ミシンを使って生活に役立つ物を作ろう」という題材目標を設定する。生活に役立つ物は、子供と話しながら初めての製作のため作業工程が簡易なランチョンマットと箸袋から選択し、布の色や柄、大きさは使用場所や好みによって選択できるようにすることを共有する。



【身の回りの布製品】

5 題材計画と方法の習得の段階に合わせた手立て（本時 6/11）

次	題材計画	方法の習得の段階に合わせた手立て
一	<p>① ミシン縫いのよさは何か考えよう</p> <p>手縫いやミシン縫いした身の回りの物を観察したり、教師がミシン縫いを示範したりすることで、それぞれの縫い方のよさに気づき、ミシンを使って製作したいという思いを高め「ミシンを使って生活に役立つ物(ランチョンマットや箸袋)を作ろう」と題材の目標を設定する。目標達成するための課題を話し合って大まかな題材計画を設定し、縫い方の練習方法、時間などを決める。ミシンの使い方に慣れてから、製作物を製作するなど安心して取り組めるよう次時からの製作活動への見通しをもつ。</p>	<p>【認知段階】</p> <p>②時では、ペアでミシン操作の手順、方法が使えているかを見合うことを教示する。④時では、縫い終わったら、縫い目を確認し、縫い方手本と見比べたり、友達と確認したりすると正しく縫えているか確かめることができることを実際に教師と一緒にしながら教示する。また、友達と相談したり、手順表や手本動画を見返したりして、改善方法を考えることで課題解決ができるというよさも共有している。そして、この方法を繰り返し使うとミシンの使い方をマスターでき、自分のイメージに合った作品を作ることができるというよさも共有している。</p>
	<p>② ミシンの安全な使い方を知ろう</p> <p>ミシンの安全な使い方を知り、手順表で確認しながら、ペアで準備や片付け方法を確認する。また、から縫いで直線縫いをする。</p>	
	<p>③ 上糸のかけ方、下糸のかけ方と出し方、巻き方をやってみよう</p> <p>上糸と下糸のかけ方、下糸の出し方、下糸の巻き方をペアで確認しながら、練習する。自分が製作する物を決める。</p>	
	<p>④⑤ ミシン縫いを練習して、上手に縫えるポイントを見付けよう</p> <p>製作物がどんな縫い方をしているか、段階見本から確認し練習布を使って、返し縫い・直線縫い・角縫いを練習する。上手に縫えるポイントを見付ける。次時にもっと練習する縫い方を決める。</p>	
	<p>⑥ ミシン縫いをもっと練習して、ミシンマスターになろう</p> <p>自分の作りたい物に合った縫い方を選択し、縫い方のポイントを考えたり、ペアと確認し合ったりしながらミシン縫いの練習をする。</p>	
	<p>⑦～⑩ ミシンを使ってランチョンマットや箸袋を製作しよう</p> <p>いつ・だれが・どこで使うのかを考えたランチョンマットや箸袋の完成予想図と小物づくりを想起し、製作計画を立てる。作る物ごとにグループに分かれて、印付け、裁断、アイロンがけ、まち針で留めて仮縫い、ミシン縫い等、製作計画の手順を基に製作する。各製作はグループ内の友達と互いに確認やアドバイスをしながら進める。各時間の終わりには、グループの友達と製作活動を振り返ることで、製作計画の進行状況や縫い方の成長を確認する。</p>	
三	<p>⑪ 製作を振り返ろう</p> <p>家庭や学校生活の中で使用后、製作を振り返る。製作過程で上手いといったことやいかなかったことから自分の成長や友達と共に製作するよさに気付く。また、製作物を通して身の回りの生活を快適にするだけでなく、工夫次第で楽しく豊かにできることを知り、これからは家族のためにも様々な布製品を作りたいという意欲を高める。</p>	<p>【想起段階】</p> <p>解決の見通しの時に「縫い終わったらどうしたらよかったかな」と問いかね、方法を想起できるようにする。また、方法を掲示しておき、想起しやすくする。縫い目を確認せずに次々に縫い進めている子供には、個別に声を掛けたり、縫い方手本を見たりするよう促し方法を想起できるようにする。</p>
		<p>【方法に関する掲示物】</p>
四		

6 本時の学習

目標	自分の作りたい製作物に必要な縫い方は何かを考えて、自分のミシンの使い方の課題を見だし、解決方法を自分やペアの友達と見付け、直線縫いや角縫いに取り組んでいる。
----	--

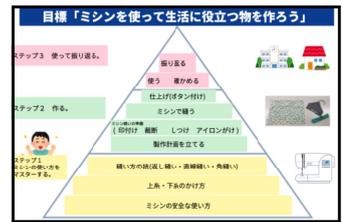
学習活動	見通し	主な子供の意識
1 前時の学習を振り返り学習課題を設定する。	見通し	この前は、箸袋などを縫う時に必要な直線縫いや角縫いを練習したよ。 直線縫いが線からはみ出してしまったよ。手の置き方がちがうのかな。 角縫いの角がどうしてもずれてしまうよ。どうしてかな。 ミシン縫いをもっと練習して、ミシンマスターになろう
		箸袋を縫う時に真っ直ぐきれいに縫いたいから直線縫いを線からはみ出さずに縫いたいな。 ランチョンマットを縫う時に角を4つ曲がるから、角縫いの角がピッタリ曲がれるようになりたいな。 どうやって練習すれば、ミシン縫いが上手になるのだったかな。 まず、縫い終わった後、縫い目を見ると自分やペアの友達の縫い方が確かめられるね。次に、きれいに縫うためにどんなことに気を付けて縫うかをペアの友達に聞いたり、手順表や手本、動画を見たりするとよかったね。
2 活動の見通しをもつ。	行動	ぼくは、直線縫が真っ直ぐ縫えるように練習するよ。見ててね。 返し縫いは上手くいったけど、途中から線からはみ出してしまうな。 縫い目を確かめてみよう。やっぱり右にずれているな。どうしてかな。 なるほど。次は、布が真っ直ぐになるように力加減を意識するよ。 分かったよ。真っ直ぐ縫えているよ。もうすぐ角だね。 この前、□□さんが角の手前で止まるポイントを見付けていたよ。 角の手前で止め、はずみ車を回して角に合わせたらどうかな。 もっと練習したらよいところを意識して、確かめ縫いをしよう。 手の置く位置や力加減を意識したから線からはみ出さずに縫えたよ。 縫い目を確認して縫うと、直線縫いや角縫いをもっと上手になるんだね。
		分かった。返し縫いは、少し手前から針を刺せているからいいね。 スピードはいいね。でも線から外れてしまっているね。 手本を見てみよう。左右の力加減が違くと線からずれるみたいだよ。 次は、私の番だ。角を曲がる時、ピッタリ曲がりたいから見ていてね。 角を通り過ぎてしまったな。どうしよう。このまま縫うしかないな。 確かに。手前で止まったらその後どうするんだったかな。 なるほど。手前で止めると角にピッタリ針が刺せそうだ。次に試そう。
		分かったよ。返し縫いは、少し手前から針を刺せているからいいね。 スピードはいいね。でも線から外れてしまっているね。 手本を見てみよう。左右の力加減が違くと線からずれるみたいだよ。 次は、私の番だ。角を曲がる時、ピッタリ曲がりたいから見ていてね。 角を通り過ぎてしまったな。どうしよう。このまま縫うしかないな。 確かに。手前で止まったらその後どうするんだったかな。 なるほど。手前で止めると角にピッタリ針が刺せそうだ。次に試そう。
3 直線縫いや角縫いをペアで練習する。	見通し	〇〇さんと確認したおかげで真っ直ぐ縫えるようになったよ。 直線縫いや角縫いが前よりも上手になって、自信がついたよ。次はいよいよランチョンマットを作るよ。作る時に今日の練習を生かせそうだ。
		今日は角の手前で止まることができたから角縫いがきれいにできたよ。

評価	前時の学習から製作物に必要な縫い方の課題を見だし、解決するために縫い終わった後の縫い目を見たり、それを手本と見比べたり、友達と相談し合ったりしながら、どうすればよりよい縫い方ができるかを考え、直線縫いや角縫いを繰り返している。【方法：発言、様相、練習布】
----	---

7 本時の詳細

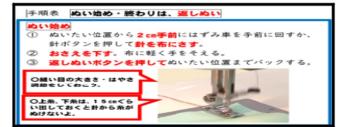
～見通し～ **学習活動 1・2**

補助黒板の題材計画を示して、「ミシンを使って生活に役立つ物を作ろう」という題材の目標と達成に向けて取り組んできたことを確認する。また、ランチョンマットや箸袋の実物を掲示しておき、製作のためにミシン縫いの練習をしていることをイメージできるようにする。そして、前時の学習を振り返り、「よりよい製作物を作るために、もっと直線縫いや角縫いがきれいに縫えるミシンマスターになりたい」という思いをもって



【題材計画】

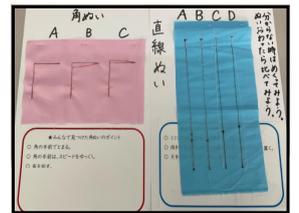
ことを想起し、本時の学習課題を設定する。また、各自の縫い方の課題を確認し、前時までに見付けたポイントを使って縫うと上手いきそうだという見通しやさらに上達するためにポイントを見付けるといいという見通しをもって活動に取り組めるようにする。練習を始める前に、ペアでレベルアップしたい縫い方と理由を伝えることから始めその縫い方に合ったポイントをペアで考えながら進めていくことを確認する。次に、縫う際にどんな手順が必要かを問い、それは何を手がかりにしたらいかを確認する。そして縫った後は、直ぐに2回目に進んでよいかを問うことで、「縫い目を見てきれいに縫えたかどうかをペアで確認すること」「縫えていたらミシンの操作方法が正しくできていること」また、「縫えていない時は、手本動画を見たりペアの友達に相談したりすることで、どこに課題があるのか見直すようにするとよいこと」という解決する方法を想起できるようにする。



【手順表の一部】

～行 動～ **学習活動 3**

ペアでミシン縫いの練習をする際は、時間内であればペアの実態に応じて複数回練習ができるようにする。使用する練習布は各自の課題に合った難易度の練習コースにするため、前時に各自が考えたコースを使用する。友達と練習をすることで、友達のミシン縫いの様子を見たり、教え合ったりしながら互いに直線縫いや角縫いの技能を習得しやすいというよさを共有している。



【縫い方手本の一部】

ペアの組み合わせは、ミシン縫いの経験や手縫いの技能、人間関係を鑑み

関わりやすいペアになるようにしている。各テーブルに、縫い方手本、ヘルプカードをかごに入れておいたり、手本動画をあらかじめパソコンに送っておいたりして、いつでも困った時には、それぞれの縫い方を確認できるようにしておく。また、ミシン縫いは交代で行い、縫っていない時はチェックリストを用いながらペアの友達の縫い方を見て、ミシンマスターになれるように教え合えるようにする。さらにミシン操作で困った時には、ヘルプカードを用いて確認



【縫い方のポイント掲示物】

をし、どうしても分からない時は、教師に助けを求められるようにする。縫い目を確認していない子供や、次に気を付ける縫い方が見付からなくて困っている子供には個別に声をかけ、できていることやできていないことについて助言する。そして、次に縫う時に気を付けることを意識して2回以上縫う時間を確保し、直線縫いと角縫いがレベルアップできるようにする。

～振り返り・見通し～ **学習活動 4**

本時は、ミシン縫いの総仕上げの時間に当てているため「直線縫いと角縫い」だけのチェックリストを用いて自分やペアの友達と評価できるようにする。また、項目は縫い方の手順とともに子供が見付けたきれいに縫えるポイントを入れている。本時に見付けたポイントがあれば、追加する。一緒に活動したペアの友達に今日の活動を通して、自分の成長や互いによかった点を伝え合う場を設定し、友達と協働して学ぶよさや友達への貢献についても感じられるようにする。題材計画を提示し、次時からの活動の意欲を高められるようにする。

直線ぬい・角ぬいチェックシート		名刺()	
マスターになるためのポイント		自分	友達 (OOさん)
① 布に針を刺してから糸をさえる	○	○	△
② ぬい始めは、返しぬいができる	○	○	○
③ 針の正面に布を置く	△	○	△
④ 両手を置く位置が同じ(両手の力が同じ)	○	○	△
⑤ ぬい終わりは、返しぬいができる	○	○	○
⑥ 糸の始末ができる	△	○	△
⑦ 縫い針を動かさずにぬえる	△	○	△
⑧ さらに見付けたポイントがあれば書く	○	○	○

【チェックリストの一部】

